![MCAN01922_0000[1]]()

教材研究ノート№2-C-2

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・任意単位いくつ分で，長さが表わせることを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・1年「ながさくらべ」で，直接比較しなくても，間接比較や任意単位のいくつ分によって，2つのものの長さを比べられることを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・2種類の任意単位を比較したり，普遍単位の必要性に着目したりする経験は初めて。普遍単位を作り出してきた歴史に触れる最初の学習である。

○ゆさぶりに対応する経験

・そろえることで2つの長さが比べられることを学習している。

≪学習問題≫

うさぎとりすが魚つりをしました。

うさぎ「こぶし3つ分の魚をつったよ。」

りす　「ぼくのはこぶし4つ分だよ。ぼくの方が1つ分長いね。」

りすのつった魚の方が長いといってもよいのかな。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

![MCj03398840000[1]]()

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②見通し:こぶし1つ分の大きさが違うから比べられない。

→同じ長さのもののいくつ分で比べればよい。

②学習課題:同じ長さのものを使って，うさぎとりすのつった魚の長さがいくつ分になるかを表そう。

③個人追究:ブロックや数え棒などを使って2つの魚の長さを数で表して，どちらが長いか判断する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのやり方でも言えることはなんだろう？」

→「同じもののいくつ分で長さを比べている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「同じ長さのものを使えば，どんなものでも比べることができるのかな？」

→「同じ長さのものなら，どんなものでも比べることができると思う。」

「あまりが出てしまい正確に比べることができない場合がある。あまりがでないものがほしい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・同じ長さのものならば，どれを使っても長さ比べができる。

・あまりがでることが多いので，あまりが出ないように測れるものがあるとよい。

⑥定着･活用問題

ねこの魚の長さはブロック5つ分，犬の魚の長さはねこの魚よりブロック2つ分長い。犬の魚の長さはブロックいくつ分かな。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・こぶしでは，大きさに個人差があって比べられないことに気づかせ，同じもので比べなければならないという必要感から，解決の見通しを持たせたい。

・色々な長さを比べ，任意単位を共通にすると数値化（いくつ分）して比較できるよさを感じさせるとともに，半端な長さの表現を学級で決め，共通単位や普遍単位の必要性を持たせておきたい。

【板書計画】